

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 台風第9号については最新の台風予報を参照。
- 11日は、日本のはるか東の高気圧が西日本付近に張り出す。沿海州から北日本に前線がのびる。
- 12日から15日は、日本のはるか東の高気圧の西日本への張り出しが弱まり、前線が北日本を通過する。沿海州付近からオホーツク海へ低気圧が進む。

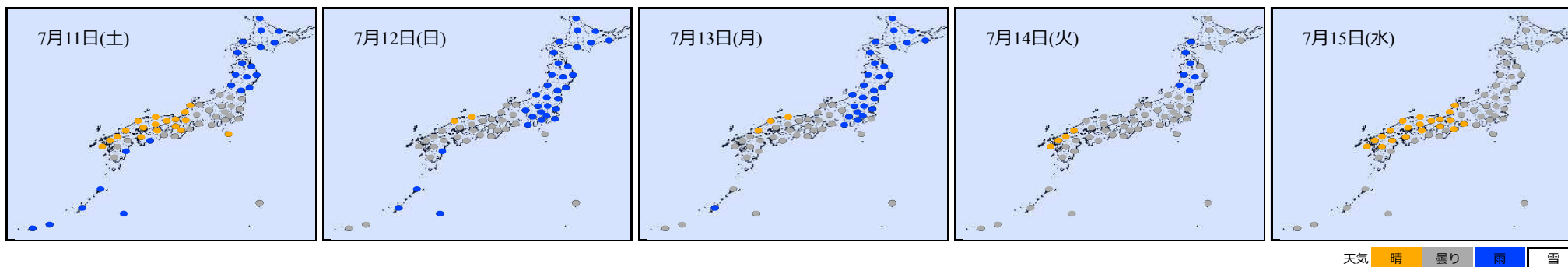
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12日頃にかけて、沖縄・奄美では、台風第9号の影響で大荒れや大しけ、警報級の大雨となるおそれがあり、台風の進路等によっては警報級の高潮となるおそれがある。また、西日本では、11日は、台風の進路等によっては大しけとなるおそれがある。
- 12日から13日にかけて、北日本では、前線の活動の程度によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

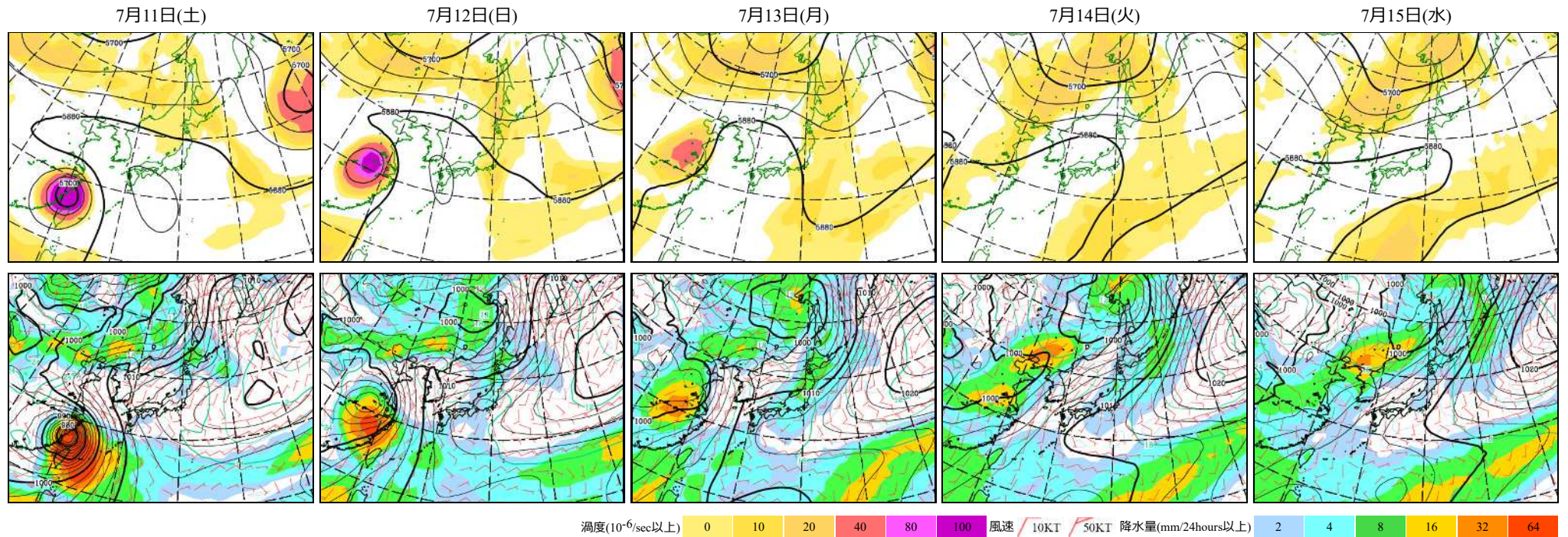
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

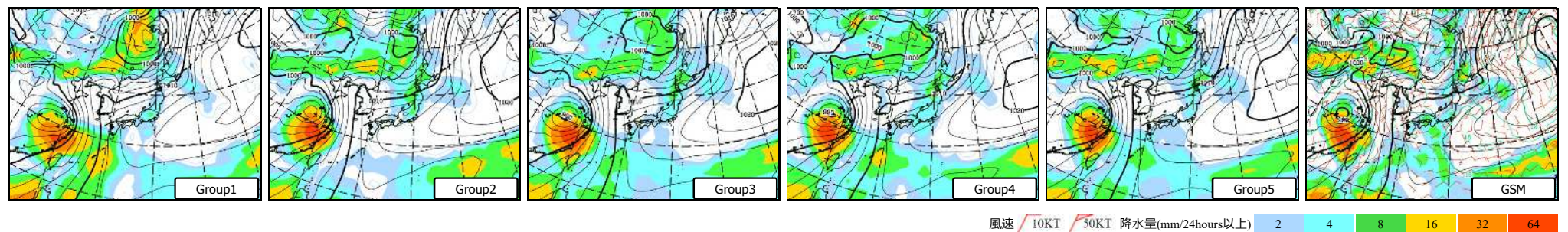


- 北日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、雲が広がりやすく12日から13日にかけては雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、11日から12日にかけては雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月12日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、オホーツク海~千島近海に進むリッジの東進がやや早まった、その後続のアムール川中流付近のトラフはやや深まった。地上は、期間の前半では、西日本付近にのびる気圧の尾根が強まった。13日以降に沿海州付近からオホーツク海へ進む低気圧は、その位置がやや南下した。
- 12日にかけてはモデル間の差は比較的小さいが、その後は拡大する。スプレッドは期間の後半は大きく、特定高度線のばらつきも見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、台風進路予報や最新のENSを基に考える。